

## 自己評価報告書

平成23年5月17日現在

機関番号：80101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520605

研究課題名（和文）勸農を中心とする三県一局期のアイヌ政策に関する研究

研究課題名（英文）Research on Ainu Policies during SANKEN IKKYOKU Period (1882-1886), with a Focus on Agriculture

研究代表者

山田伸一（YAMADA SHINICHI）

北海道開拓記念館・学芸部・研究員

研究者番号：30291909

研究分野：日本史

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本史 先住民族 勸業政策 北海道開拓

## 1. 研究計画の概要

北海道において、いわゆる三県一局期（1882～85年）に開始されたアイヌ民族に対する勸農政策（「旧土人救済方法」などと呼ばれた）について、札幌県と根室県に重点を置いて下記の諸点を中心に検討し、開拓使による諸政策の結果として生じたアイヌ民族の困窮に北海道の地方行政がどのように対応したのか、「北海道旧土人保護法」（1899年制定）による農耕に目的を限定した土地下付政策が、地域においてどのような前提をもっていたのかを考察する。

- (1)各県によるアイヌ民族の実情把握、県庁内部における議論および農商務省とのやりとりなど「救済方法」の立案過程
- (2)種苗・農具の給与、教授者派遣など施策の実施実態
- (3)アイヌ民族に対する移住の実施やその土地制度上の扱い、農業以外の生業活動についての制限などとの関係
- (4)各地のアイヌ民族の対応および政策がアイヌ民族に与えた影響
- (5)「救済方法」の打ち切り過程

## 2. 研究の進捗状況

(1)北海道立文書館が所蔵する札幌県文書の調査を継続的におこなったのを始めとして、当該期の『官報』、北海道内刊行の新聞、十勝地方への最初の移住団体である晩成社関係者の日記などを調査して、関係史料を収集した。

(2)札幌県文書のうち、勸業課作成文書についてサケの禁漁をめぐる問題や農業教授を中心として重点的に調査したほか、会計課作成文書についてアイヌ民族に関する農業教授の実施、飢餓に対する救済米の支給に関す

る文書を調査し、内容の分析を進めている。(3)十勝川流域において札幌県が実施したサケ禁漁とアイヌ民族の関係について、次のような諸点を明らかにした。

①現地を事前に調査した官吏にはサケ禁漁の強行がアイヌ民族の飢餓を生じさせるとの予想があったが、県はこれを採用せず監守を派遣して取締りを徹底し、それが一要因となってアイヌ民族の飢餓が発生した。

②アイヌ民族からは自給用サケ漁の容認を求める動きがあり、札幌県は監守派遣を1年ないし2年で打ち切って実質的には「密漁」黙認と同然の扱いをしたが、制度上権利を否定した点には変更を加えなかった。

(4)付随的な成果として、開拓使による奥尻島へのシカ移入を事例に、当該期の勸業政策の特徴を考察した。

(5)札幌県によるアイヌ民族に対する勸農政策について、次のような見通しを得るに至っている。

①勸農政策の前提となったアイヌ民族の飢餓の主要因は、シカ減少など開拓使期からの政策および和人「奸商」との関わりにある。

②狩猟・漁猟よりも農耕が優れていると見、農業への移行を必然とする考えは開拓使期から行政内部に根強く存在し、そうした考えが政策に影響した面が強い。

③政策を特徴づける勸農と集住には、行政主導という面が非常に強い一方、それに適応するか拒否するかといったアイヌ民族の対応には、地域・世代・男女などの違いが見られる。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

十勝地方において勸農政策の前提となった開拓使・札幌県によるサケ漁規制とアイヌ民族の関係について、論文をまとめ発表した。また、札幌県の勸農政策が実施された十勝・日高・胆振について、関係史料の収集と分析を進めつつあり、最終年に何らかの成果を公表することができる見通しを得ている。

#### 4. 今後の研究の推進方策

最終年である今年度は、根室県関係の史料調査にも重点を置いて調査を進めるとともに、札幌県管内については補足的な調査をおこない、これまで収集した関係史料と現地調査の成果の整理・分析を進め、年度内に以下を達成することを目指す。

(1) 十勝地方を対象として、勸農政策の展開を中心とするアイヌ政策についての論考をまとめる。

(2) 日高、胆振地方などその他の札幌県管内については、勸農政策の展開を整理・分析する。

(3) 根室県管内については、史料の収集を進めてその体系化を図り、今後の本格的な分析の準備をするとともに、地域ごとの勸農政策の展開について見通しを得る。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

山田伸一、開拓使による奥尻島へのシカ移入とその後、北海道開拓記念館研究紀要、査読無、第38号、2010年、67-80頁

山田伸一、札幌県による十勝川流域のサケ禁漁とアイヌ民族、北海道開拓記念館研究紀要、査読無、第36号、2009年、201-222頁